

中学部課題学習 B グループ 教科別の指導「数学」 学習指導案

授業者 ○○ ○○ (T1)

○○ ○○ (T2)

○○ ○○ (T3)

1 単元名「○時間○分後の時計を理解しよう」

2 単元設定の理由

(1) 生徒観

課題別学習 B グループは、中学部 1 年 2 名（男子 2 名）、2 年 4 名（女子 2 名男子 2 名）3 年 2 名（男子 2 名、うち重複学級 1 名）の 8 名で構成される。主な障害名は_____

_____（生徒の障害については省略）_____

_____の特徴が見られる生徒が所属している。また、程度の差はあるが、全員が知的障害であり、_____名いる。

日常生活では、着替え、排泄、食事等を含めてほとんど自立している。集団活動については、集団での活動ができる生徒が多いが、初めての活動に対して消極的、または苦手意識から自信を持てずなかなか取り組めない生徒もいる。また自分のやりたいことや気になることが優先されてしまい、気持ちを切り替えることが難しい生徒もいるなど、実態の差がある。

コミュニケーションにおいては、発語での会話が全ての生徒で可能である。生徒同士のコミュニケーションも積極的に行われているが、言葉遣いや不適切な関わり方からトラブルになってしまうことがある。そのため必要に応じて別室で学習する、落ち着いた環境で学習に取り組むなど、環境面への配慮が必要な生徒もいる。

ICT 活用についてはどの生徒も意欲を見せており、一人一台で教材や自主学習に積極的にデジタル教材を活用している。またデジタルな学びで理解を深め、アナログなドリル学習に自信を持って取り組める生徒もいる。

どの生徒も日課表を見て一日の大まかな見通しを持つことが出来るが、時間や時刻を見て自発的に「あと○分」を意識して行動するのは難しい。

(2) 単元観

本単元では中学部数学「C 測定」の時計の学習を主題として行う。昨年度の時計の学習では、アナログ時計の 10 分後・30 分後の長針の動きに関する学習を行った。長針が進む幅をラインマーカー等で強調して示すことで、時間を量で捉えて問題を解くことができていた。今年度は、10 分単位での長針の動きと短針の読み方について学習に取り組む。本グループの生徒は実態の幅が広いが、殆どの生徒が 10 分単位では時計を読むことができていた。30 分単位で理解している生徒も、5 分単位の時計のヒントを元に長針を読むことが出来ていた。時計の学習を通して【中学部 2 段階 C 測定（イ）⑦】の目標を達成し、日常生活場面で簡単な時刻や時間を求める力を身につけさせたい。

本単元ではパワーポイントで作成した時計教材やアプリを活用して学習に取り組むことで、時計の針の動きを自分で操作することができる。数学の学習に苦手意識のある生徒でも関心を持って取り組めると考える。難易度の違うアプリとドリルを用意し、ドリルは紙とデータで取り組み方を選べるようにすることで、実態差の広い本グループでも個別の実態に応じた指導が可能である。

スマートフォンやテレビなど、デジタル表示の時計も増えてきているが、児童生徒が日常的に目

にすることが多く量的な捉えによって時間を理解することができるアナログ時計を用いて学習の理解を深めることで、スケジュールを立て、見通しを持つ力を育みたいと考える。

学習指導要領における「C 測定」の時計の学習に関わる各段階の目標と内容は以下の通りである。
特別支援学校 中学部学習指導要領 知的障害 数学科

第1段階 C 測定

- (ア) 身の回りにある長さ、体積、重さ及び時間の単位と測定の意味について理解し、量の大きさについての感覚を豊かにするとともに、それらを測定することについての技能を身に付けるようにする。
- (イ) 身の回りの事象を量に着目して捉え、量の単位を用いて的確に表現する力を養う。
- (ウ) 数量や図形に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことのよさに気づき、そのことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。

第2段階 C 測定

イ 時刻や時間に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- (ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。
 - ㊦ 時間の単位（秒）について知ること。
 - ㊧ 日常生活に必要な時刻や時間を求めること。
- (イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
 - ㊦ 時間の単位に着目し、簡単な時刻や時間の求め方を日常生活に生かすこと。

(3) 指導観

前述の生徒観、単元観を受け、

- ① ICTを活用することで学ぶ意欲を高める。
- ② 自分でヒント等のレベルを調整し、自分のペースや学びやすい方法で学習に取り組む。
- ③ ドリルやテストを通して時計と時刻の学習の理解を深める。

以上3点を考慮し、支援していく。

①については、抽象的な数量の理解が難しく数学の学習に苦手意識を持っている生徒もいるため、ICTを活用することで楽しみながら意欲的に取り組めるように設定する。毎授業タブレットを活用しているためどの生徒も操作には慣れており、ICTの「やり直しが容易である」という特性からアナログな学習より意欲を示している生徒も多く、有効な指導手立てと考える。

②については、既存のアプリではなく教材を自作した。時計の文字盤を実態に即したレベルに設定することができることで、理解度の幅が広い本グループにおいても、個々の学習レベルに即した問題を用意することができる。また各々のiPadで操作できることで、自分のペースで学習を進めることができる。

③についてはドリルやテストでアウトプットすることで、理解の定着を確認する。麻痺等で書字に時間がかかり、それが原因で学習意欲が落ちている生徒もいるため、ドリルは紙とデータの両方から選べるようにする。また確認テストをアプリで行い、ゲーム感覚で行うことでテストへの抵抗感を減らし、モチベーションを高められるようにする。

3 児童生徒の実態

氏名	生活全般の実態	単元（題材または主題）に関する実態
A	・指示を聞いて理解し、行動することができる。 ・教員の問いかけに対して挙手して答えることは難しいが、促すと答えることができる。 ・好きなことややりたい活動に対しては、意欲的に取り組むことができる。 ・勝敗へのこだわりがある。	・繰り上がりのある足し算、繰り下がりのある引き算が出来る。 ・4位数を数えることが出来る。 ・10分単位の時刻を読むことが出来る。
B	・指示を聞いて理解し、行動することができる。 ・教員の問いかけに対して積極的に言葉で答えることができる。 ・脳性麻痺による両上下肢の機能障害があり、発語の不明瞭さがある。 ・麻痺のため、文字は大きくゆっくり書く。 ・積極的に友達と関わる事が出来る。 ・苦手なことには消極的な姿勢を示す。	・繰り上がりの無い足し算が出来る。 ・4位数を数えることが出来る。 ・30分の時の時刻を読むことが出来る。
C	・指示を聞いて理解し、行動することができる。 ・教員の問いかけに対して自信のあるものには積極的に言葉で答えることができる。 ・体幹が弱く、姿勢を維持することが難しい。 ・苦手なことには消極的な姿勢を示す。	・繰り上がりの無い足し算が出来る ・4位数を数えることが出来る。 ・10分の時の時刻を読むことが出来る。 ・マーカー等でヒントを示すことで10分単位の長針の動きが分かる。
D	・指示を聞いて理解し、行動することができる。 ・教員の問いかけに対して言葉で答えることができる。 ・言動に対して注意されると強い口調で言い返したり、手が出てしまったりすることもあるが、丁寧に説明すると受け入れ落ち着くことができる。 ・勝敗へのこだわりが強い。	・3桁の足し算引き算が出来る。 ・4位数以上を数えることが出来る。 ・1分単位の時刻を読むことが出来る。 ・時計を見て行動することが出来る。 ・マーカー等でヒントを示すことで10分単位の長針の動きが分かる。
E	・指示を聞いて理解し、行動することができる。 ・教員の問いかけに対して積極的に言葉で答えることができる。 ・分からないことがあるときには、具体的に細かく声掛けをすると理解できる。 ・周囲が気になってしまい、自分の活動に時間がかかってしまうことがある。	・繰り上がりのない足し算が出来る。 ・4位数を数えることが出来る。 ・10分単位の時刻を読むことが出来る。 ・マーカー等でヒントを示すことで10分単位の長針の動きが分かる。
F	・指示を聞いて理解し、行動することができる。 ・教員の問いかけに対して積極的に言葉で答えることができる。 ・言葉で積極的にコミュニケーションを取ることが出来る。 ・友達を一方的に注意してしまうことがある。	・1桁同士の足し算が出来る。 ・4位数を数えることが出来る。 ・10分単位の時刻を読むことが出来る。 ・時計を見て行動することが出来る。 ・マーカー等でヒントを示すことで5分単位の長針の動きが分かる。

G	・指示を聞いて理解し、行動することができる。 ・個別の教員の問いかけに対して言葉で答えることができる。 ・情緒的に不安定になりやすい。 ・信頼できる教員を励みに集団への活動に参加できる。	・四則計算を理解して解くことができる。 ・4位数以上を数えることができる。 ・1分単位の時刻を読むことができる。 ・時計を見て行動することができる。
H	・指示を聞いて理解し、行動することができる。 ・個別の教員の問いかけに対して言葉で答えることができる。 ・生活リズムが崩れており日中眠気が強くなることもある。 ・集団の中で長時間活動に参加することが難しい。 ・気持ちのコントロールが難しく、相手の言動に対してイライラして暴言を言うことがある。 ・信頼できる教員を励みに集団への活動に参加できる。	・2桁の足し算引き算が出来る。 ・2の段までのかけ算が出来る。 ・4位数以上を数えることができる。 ・1分単位の時刻を読むことができる。 ・時計を見て行動することができる。

4 本単元の目標

(1) 共通目標

- ① 時計の時刻の読み方を理解し、何時間何分後の時刻を答えることができる
【知識及び技能】
- ② 時計の針の動き方を理解し、日常生活で時計や時間を意識できるようになる
【思考力、判断力、表現力等】
- ③ 学びに関心を持ち楽しさを感じながら、学ぶ態度を養うことができる
【学びに向かう力、人間性等】

(以降、知識及び技能を【知】、思考力、判断力、表現力等を【思】、学びに向かう力、人間性等を【学】と表示する)

(2) 個人目標

氏名	単元に関する目標	教育支援プランBの目標
A	【知】5分単位の長針の時刻を読み、タブレットを活用して○時間○分後の時刻が分かる。 【思】日常生活場面で時計を正しく読むことができる。 【学】時計の学習に意欲的に取り組むことができる。	・5分単位の時刻を読み取れるようになり、長針の5分単位の動きを理解することができる。 ・短針と長針の時刻を正しく読むことが出来る。
B	【知】10分単位の長針の時刻を読み、タブレットを活用して○時間○分後の時刻が分かる。 【思】日常生活場面で時計を正しく読むことができる。 【学】時計の学習に意欲的に取り組むことができる。	・10分単位の時刻を読み取れるようになり、長針の10分単位の動きを理解することができる。 ・短針と長針の時刻を正しく読むことが出来る。

C	【知】10分単位の長針の時刻を読み、タブレットを活用して○時間○分後の時刻が分かる。 【思】日常生活場面で時計を正しく読むことができる。 【学】時計の学習に意欲的に取り組むことができる。	・10分単位の時刻を読み取れるようになり、長針の10分単位の動きを理解することができる。 ・短針と長針の時刻を正しく読むことが出来る。
D	【知】1分単位の長針の時刻を読み、タブレットを活用して○時間○分後の時刻が分かる。 【思】日常生活場面で時計を正しく読むことができ、見通しを持つことができる。 【学】時計の学習に意欲的に取り組むことができる。	・5分単位の時刻を読み取れるようになり、長針の5分単位の動きを理解することができる。 ・短針と長針の時刻を正しく読むことが出来る。
E	【知】5分単位の長針の時刻を読み、タブレットを活用して○時間○分後の時刻が分かる。 【思】日常生活場面で時計を正しく読むことができる。 【学】時計の学習に意欲的に取り組むことができる。	・5分単位の時刻を読み取れるようになり、長針の10分単位の動きを理解することができる。 ・短針と長針の時刻を正しく読むことが出来る。
F	【知】5分単位の長針の時刻を読み、タブレットを活用して○時間○分後の時刻が分かる。 【思】日常生活場面で時計を正しく読むことができる。 【学】時計の学習に意欲的に取り組むことができる。	・5分単位の時刻を読み取れるようになり、長針の5分単位の動きを理解することができる。 ・短針と長針の時刻を正しく読むことが出来る。
G	【知】1分単位の長針の時刻を読み、タブレットを活用して○時間○分後の時刻が分かる。 【思】日常生活場面で時計を正しく読むことができ、見通しを持つことができる。 【学】時計の学習に取り組むことができる。	・1分単位で○時間○分後の時刻を理解することができる。 ・短針と長針の時刻を正しく読むことが出来る。
H	【知】1分単位の長針の時刻を読み、タブレットを活用して○時間○分後の時刻が分かる。 【思】日常生活場面で時計を正しく読むことができ、見通しを持つことができる。 【学】時計の学習に取り組むことができる。	・1分単位で○時間○分後の時刻を理解することができる。 ・短針と長針の時刻を正しく読むことが出来る。 ・時刻を逆算して行動することができる。

5 指導計画

	活動内容	授業時数
1	10分単位の時計と読み取り、短針の読み取り	2時間（本時 1／2）
2	5分単位の時計の読み取り、短針の読み取り	3時間
2	アナログ時計とデジタル時計の変換	1時間

6 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の視点

学習指導要領で示されている主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の取り組みに関して、本単元の配慮事項を各視点で以下に示す。

○「主体的な学び」：時計のアプリ教材等を活用して、自分の力で問題を解くことができたか

○「対話的な学び」：問題文を読み取り、正しく時計の針を操作できたか

○「深い学び」：日常の場面で時計を正しく読むことができたか

以上、学習指導要領に示された、本単元に関わる数学科のねらいの達成に向けて支援を行い、学習に取り組むことで、個々の生徒の身に着けて欲しい資質・能力を育成できると考える。

7 本時の構成

(1) 本時の個人目標

	本時に関する目標
共通目標	【知】5分または10分単位の長針の時刻を読み、タブレットを活用して○時間○分後の時刻が分かる。 【思】10分単位の長針の動きを理解し、問いに答えることが出来る。 【学】時計の学習に意欲的に取り組むことができる。
A	【知】10分単位の長針の時刻を読み、タブレットを活用して○時間○分後の時刻が分かる。 【思】10分単位の長針の動きを5分単位の量で理解し、問いに答えることが出来る。 【学】時計の学習に意欲的に取り組むことができる。
B	【知】10分単位の長針の時刻を読み、タブレットを活用して○分後の時刻が分かる。 【思】10分単位の長針の動きを5分単位の量で理解し、問いに答えることが出来る。 【学】時計の学習に意欲的に取り組むことができる。
C	【知】10分単位の長針の時刻を読み、タブレットを活用して○分後の時刻が分かる。 【思】10分単位の長針の動きを5分単位の量で理解し、問いに答えることが出来る。 【学】時計の学習に意欲的に取り組むことができる。
D	【知】5分単位の長針の時刻を読み、○時間○分後の時刻が分かる。 【思】10分単位の長針の動きを5分単位の量で理解し、問いに答えることが出来る。 【学】時計の学習に意欲的に取り組むことができる。
E	【知】10分単位の長針の時刻を読み、タブレットを活用して○分後の時刻が分かる。 【思】10分単位の長針の動きを5分単位の量で理解し、問いに答えることが出来る。 【学】時計の学習に意欲的に取り組むことができる。
F	【知】5分単位の長針の時刻を読み、タブレットを活用して○時間○分後の時刻が分かる。 【思】10分単位の長針の動きを5分単位の量で理解し、問いに答えることが出来る。 【学】時計の学習に意欲的に取り組むことができる。
G	【知】5分単位の長針の時刻を読み、○時間○分後の時刻が分かる。 【思】10分単位の長針の動きを5分単位の量で理解し、問いに答えることが出来る。 【学】時計の学習に取り組むことができる。
H	【知】5分単位の長針の時刻を読み、タブレットを活用して○時間○分後の時刻が分かる。 【思】10分単位の長針の動きを5分単位の量で理解し、問いに答えることが出来る。 【学】約束を意識して学習に取り組むことができる。

(2) 本時の展開

別紙

8 本時の評価

(1) 生徒の学習目標

	本時に関する評価
全体の 評価	【知】5分または10分単位の長針の時刻を読み、タブレットを活用して○時間○分後の時刻が読めたか 【思】10分単位の長針の動きの違いを5分単位の量で理解できたか 【主】時計の学習に集中して取り組むことができたか
A	【知】10分単位の長針の時刻を読み、タブレットを活用して○時間○分後の時刻が読めたか 【思】10分単位の長針の動きの違いを5分単位の量で理解できたか 【主】時計の学習に集中して取り組むことができたか
B	【知】10分単位の長針の時刻を読み、タブレットを活用して○分後の時刻が読めたか 【思】10分単位の長針の動きの違いを5分単位の量で理解できたか 【主】時計の学習に集中して取り組むことができたか
C	【知】10分単位の長針の時刻を読み、タブレットを活用して○分後の時刻が読めたか 【思】10分単位の長針の動きの違いを5分単位の量で理解できたか 【主】時計の学習に集中して取り組むことができたか
D	【知】5分単位の長針の時刻を読み、タブレットを活用して○時間○分後の時刻が読めたか 【思】10分単位の長針の動きの違いを5分単位の量で理解できたか 【主】時計の学習に集中して取り組むことができたか
E	【知】10分単位の長針の時刻を読み、タブレットを活用して○分後の時刻が読めたか 【思】10分単位の長針の動きの違いを5分単位の量で理解できたか 【主】時計の学習に集中して取り組むことができたか
F	【知】5分単位の長針の時刻を読み、タブレットを活用して○時間○分後の時刻が読めたか 【思】10分単位の長針の動きの違いを5分単位の量で理解できたか 【主】時計の学習に集中して取り組むことができたか
G	【知】5分単位の長針の時刻を読み、タブレットを活用して○時間○分後の時刻が読めたか 【思】10分単位の長針の動きの違いを5分単位の量で理解できたか 【主】時計の学習に取り組むことができたか
H	【知】5分単位の長針の時刻を読み、タブレットを活用して○時間○分後の時刻が読めたか 【思】10分単位の長針の動きの違いを5分単位の量で理解できたか 【主】時計の学習に取り組むことができたか

(2) 教師の指導の評価（学習環境や教材教具等についての評価を含む）

ア 授業構成（指導手順、時間配当、指導形態等）について

- ・生徒が時計と時刻の学習の理解が深まる課題を設定出来たか（主体的に学習に取り組む態度）
- ・アプリの操作やドリルを通して、時計の長針の読み取りができたか
(主体的に学習に取り組む態度)
- ・発問やテストで正しく答えることが出来るようになったか（思考・判断・表現）

イ 教師による支援（環境設定、教材教具の工夫等）について

- ・アプリの活用を通して、意欲的に学習に取り組むことが出来たか

（主体的に学習に取り組む態度）

- ・ドリルの取り組み方が分かり、アプリ等を活用して問題を解くことが出来たか

（思考・判断・表現）

ウ その他

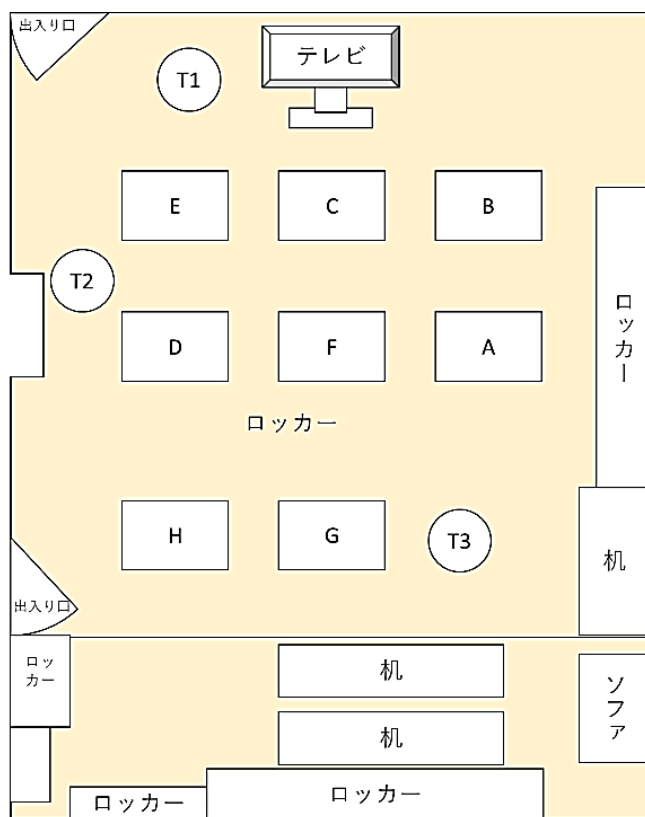
- ・ねらいに対して、本アプリをどう改善できるか
- ・他にどのような時計の学習の活動が考えられるか。

（3）本時の目標の妥当性についての評価

- ・生徒の実態にあった目標が設定できていたか。
- ・学部目標に迫る実践であったか。

9 備考（配置図、準備物、教材、参考資料等）

（1）教室



（2）教材（QRコード読み取り）

- ・電子黒板
 - ・タブレット（iPad）一人一台
 - ・テスト（Kahoot!アプリ）
 - ・ドリル（プリントまたはデータ）
 - ・時計教材（パワーポイント）
- ※データは以下 QR コード



10 本時の評価（授業実施後の評価及び今後の改善点）

(1) 生徒の学習評価

	本時に関する評価
全体の評価	【知】5分または10分単位の長針の時刻を読み、タブレットを活用して○時間○分後の時刻が読めたか 【思】10分単位の長針の動きの違いを5分単位の量で理解できたか 【主】時計の学習に集中して取り組むことができたか
A	【知】10分単位の長針の時刻を読み、タブレットを活用して○時間○分後の時刻が読めたか ➡読むことができた。 【思】10分単位の長針の動きの違いを5分単位の量で理解できたか ➡理解して解くことができた。 【主】時計の学習に集中して取り組むことができたか ➡使い方を理解すると、集中して一人で取り組めた。
B	【知】10分単位の長針の時刻を読み、タブレットを活用して○分後の時刻が読めたか ➡読むことができた。 【思】10分単位の長針の動きの違いを5分単位の量で理解できたか ➡授業開始時より理解して解くことができた。 【主】時計の学習に集中して取り組むことができたか ➡操作に慣れるまで時間がかかったが、慣れてくると集中して一人で取り組めた。
C	【知】10分単位の長針の時刻を読み、タブレットを活用して○分後の時刻が読めたか ➡欠席した。 【思】10分単位の長針の動きの違いを5分単位の量で理解できたか ➡欠席した。 【主】時計の学習に集中して取り組むことができたか ➡欠席した。
D	【知】5分単位の長針の時刻を読み、タブレットを活用して○時間○分後の時刻が読めたか ➡読むことができた。 【思】10分単位の長針の動きの違いを5分単位の量で理解できたか ➡理解して解くことができた。 【主】時計の学習に集中して取り組むことができたか ➡ドリルが配布されると集中して取り組むことができた。
E	【知】10分単位の長針の時刻を読み、タブレットを活用して○分後の時刻が読めたか ➡読むことができた。 【思】10分単位の長針の動きの違いを理解できたか ➡理解の定着は難しかったが、個別の支援を受けて10分単位の長針の問いに答えることができた。 【主】時計の学習に集中して取り組むことができたか ➡操作に慣れるまでには至らなかったが、支援を受けて最後まで取り組めた。
F	【知】5分単位の長針の時刻を読み、タブレットを活用して○時間○分後の時刻が読めたか ➡読むことができた。 【思】10分単位の長針の動きの違いを5分単位の量で理解できたか

	➡理解の定着は難しかったが、個別の支援を受けて10分単位の長針の問いに答えることができた。 【主】時計の学習に集中して取り組むことができたか ➡操作に慣れるまで時間がかかったが、慣れてくると集中して一人で取り組めた。
G	【知】5分単位の長針の時刻を読み、タブレットを活用して○時間○分後の時刻が読めたか ➡読むことができた。 【思】10分単位の長針の動きの違いを5分単位の量で理解できたか ➡理解して解くことができた。 【主】時計の学習に取り組むことができたか ➡最初から最後まで集中して学習に取り組めた。
H	【知】5分単位の長針の時刻を読み、タブレットを活用して○時間○分後の時刻が読めたか ➡欠席した。 【思】10分単位の長針の動きの違いを5分単位の量で理解できたか ➡欠席した。 【主】時計の学習に取り組むことができたか ➡欠席した。

(2) 教師の指導の評価(学習環境や教材教具等についての評価を含む)

ア 授業構成(指導手順、時間配当、指導形態等)について

・生徒が時計と時刻の学習の理解が深まる課題を設定出来たか(主体的に学習に取り組む態度)

➡できた

・アプリの操作やドリルを通して、時計の長針の読み取りができたか

(主体的に学習に取り組む態度)

➡操作に慣れることに時間がかかった生徒は長針の動きまでは注目できなかった。

次回以降プリントで理解の定着が図れるよう配慮する。

・発問やテストで正しく答えることが出来るようになったか(思考・判断・表現)

➡Kahoot!を使った確認テストでは、2回目にコンピュータが入ってきたため正確な評価ができなかったが、一部生徒は正答率の向上が見られた。

イ 教師による支援(環境設定、教材教具の工夫等)について

・アプリの活用を通して、意欲的に学習に取り組むことが出来たか

(主体的に学習に取り組む態度)

➡操作に慣れるまで時間のかかる生徒もいたが、どの生徒も時間いっぱい集中して取り組めていた。

・ドリルの取り組み方が分かり、アプリ等を活用して問題を解くことが出来たか

(思考・判断・表現)

➡初回の授業のため違いスライドを参照するなどのミスはあったが、支援を受けて問題を解くことができた。

ウ その他

・ねらいに対して、本アプリをどう改善できるか

➡今何問目なのかが分かりやすくした方がいいか。

➡Apple Pencil以外にも、アプリ操作のためのタッチペンも用意したほうが良い

➡麻痺のある生徒には、短針のヒントが上手く押せなかった。配慮が必要である。

・他にどのような時計の学習の活動が考えられるか。

7 本時の構成

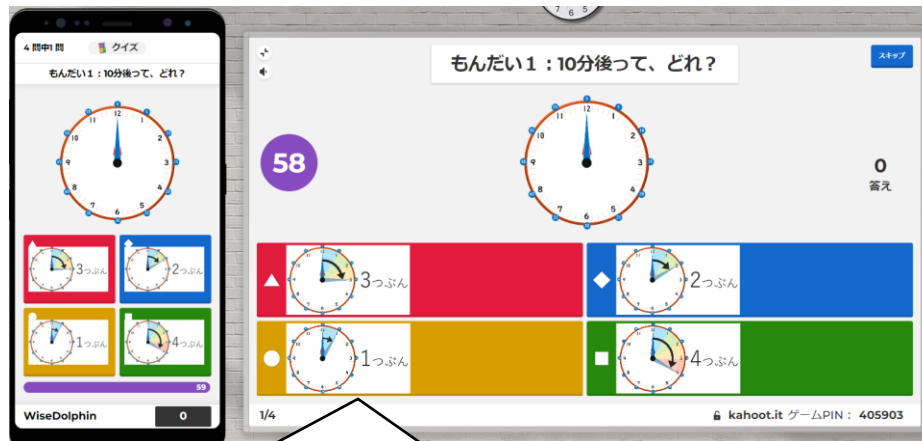
(2) 本時の展開

配時	学習活動	●指導の手立て ○生徒の活動 ※指導及び支援のねらい *評価			備考
10 : 30	あいさつをする 本日の学習内容の確認をする。	●姿勢を整え、T1 に注目して挨拶を行う (T2、T3) ○指名された当番が号令をかけて挨拶をする。 ※授業に気持ちを向けられるようにする。 ●時計の学習を行うことを説明する。(T1)			電子黒板 2 iPad(各自 1 台ずつ)
10 : 31	Kahoot! で 確 認 クイズをする	●Kahoot! を使ったクイズを開始する。(T1) ●Kahoot! 参加用の PIN コードと QR コードをテレビに表示する。(T1) ○iPad で QR コードを読み取り、クイズに取り組む ●コードの入力やカメラアプリを起動するよう個別に支援する。(T2、T3) ○Kahoot! を操作して問題を解く。 ●活用初回なので丁寧に支援する (T1、T2、T3) ※昨年度の学習の定着度合いを確認する。 *設問を読み、正当を選ぶことが出来たか (評)			電子黒板 2 iPad(各自 1 台ずつ)
		B C E	A F H	D G	
		●問題に解答できるよう個別に支援する。(T1、T2)	●設問に対してどれが正答になるか確認するよう促す。(T1、T2)	●正答を時間内に選ぶよう声掛けする。(T2、T3)	
10 : 40	・スライドで時計の学習について確認する	●時計の学習の流れを説明する。 ①スライドで時計の針の動き、長針と短針の読み方を説明する。 ②時計教材の使い方を説明し、Airdrop で生徒の iPad に転送する。 ※アプリの使い方を理解し、次のドリルにスムーズに取り組めるようにする。			

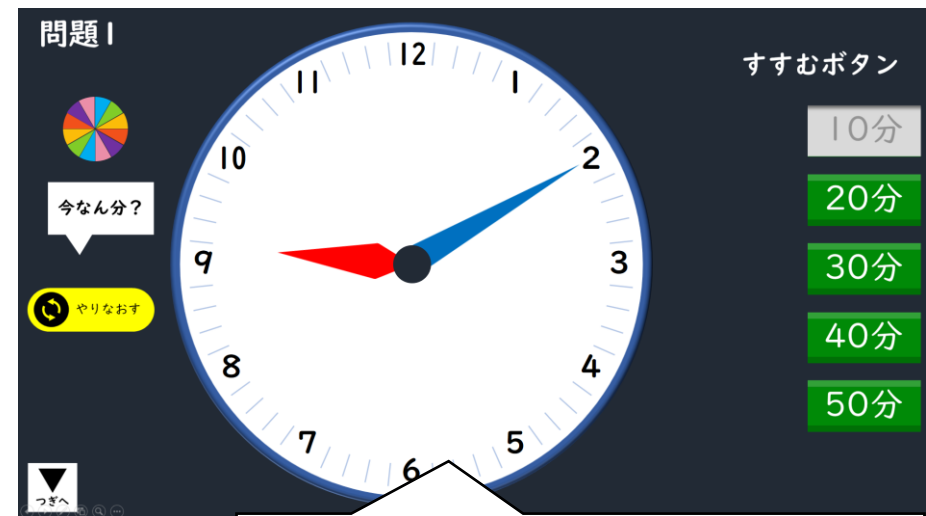
10 : 45	ドリルを解く	●PowerPoint でアプリを起動し、ドリル（紙またはデータ）の問題に取り組む。 ●実態に応じてドリルのレベルを 3 段階に設定する。 ●ドリルは紙またはデータで取り組めるよう説明する。(T1) ○ドリルを紙またはデータどちらで取り組むか選ぶ。 ●データを選んだ生徒にはドリル用の iPad を追加で渡す。(T2、T3) ※実態に応じて課題内容を調節できるようにする。 ※ドリルは障害の程度に応じてアナログとデジタルの両方の解き方が出来るようにする。 ※時計教材アプリを活用するなどして、問題を解くことが出来たか（評） <table><tr><th colspan="3">B C E</th><th colspan="2">A F H</th><th>D G</th></tr><tr><td colspan="3" rowspan="2"> ・ PowerPoint アプリが起動できるよう支援する。 ・ アプリの操作方法を丁寧に説明する。 ・ ドリル①を配布する </td><td colspan="2"> ・ PowerPoint アプリを起動するよう声掛けする。 ・ アプリの操作方法を説明する。 </td><td rowspan="2"> ・ ドリル③を配布する </td></tr><tr><td colspan="2"> ・ ドリル②を配布する。 </td></tr><tr><th colspan="3">B C E</th><th>A</th><th>F</th><th>H</th><th>D G</th></tr><tr><td colspan="3"> ・ 分からなくなった際に諦めないよう、適宜声掛けを行う。 ・ ドリルの設問内容のどこに注目するかラインマーカー等を引いて支援する。 ・ 時計の針の動きに注目するよう声掛けする。 ・ ドリルが終わったら丸付けし、2 枚目を配布する。 </td><td> ・ ドリルの解き方を適宜説明する。 ・ ドリルが終わったら丸付けし、2 枚目を配布する。 </td><td></td><td> ・ ドリル 1 枚 (2P) で終わりにすることを伝える。 ・ ドリルの設問内容に対してどのようにアプリを操作するか説明する。 ・ できたことを適宜言葉で評価する。 </td><td> ・ ドリルの解き方を適宜説明する。 ・ ドリルが終わったら丸付けし、2 枚目、3 枚目を配布する。 ・ ドリルは紙またはデータを選ぶようにする。 </td></tr></table>	B C E			A F H		D G	・ PowerPoint アプリが起動できるよう支援する。 ・ アプリの操作方法を丁寧に説明する。 ・ ドリル①を配布する			・ PowerPoint アプリを起動するよう声掛けする。 ・ アプリの操作方法を説明する。		・ ドリル③を配布する	・ ドリル②を配布する。		B C E			A	F	H	D G	・ 分からなくなった際に諦めないよう、適宜声掛けを行う。 ・ ドリルの設問内容のどこに注目するかラインマーカー等を引いて支援する。 ・ 時計の針の動きに注目するよう声掛けする。 ・ ドリルが終わったら丸付けし、2 枚目を配布する。			・ ドリルの解き方を適宜説明する。 ・ ドリルが終わったら丸付けし、2 枚目を配布する。		・ ドリル 1 枚 (2P) で終わりにすることを伝える。 ・ ドリルの設問内容に対してどのようにアプリを操作するか説明する。 ・ できたことを適宜言葉で評価する。	・ ドリルの解き方を適宜説明する。 ・ ドリルが終わったら丸付けし、2 枚目、3 枚目を配布する。 ・ ドリルは紙またはデータを選ぶようにする。	ドリル(紙またはデータ) 時計教材 (PowerPoint) タブレット(データを選んだ生徒用) タブレットペン
B C E			A F H		D G																										
・ PowerPoint アプリが起動できるよう支援する。 ・ アプリの操作方法を丁寧に説明する。 ・ ドリル①を配布する			・ PowerPoint アプリを起動するよう声掛けする。 ・ アプリの操作方法を説明する。		・ ドリル③を配布する																										
			・ ドリル②を配布する。																												
B C E			A	F	H	D G																									
・ 分からなくなった際に諦めないよう、適宜声掛けを行う。 ・ ドリルの設問内容のどこに注目するかラインマーカー等を引いて支援する。 ・ 時計の針の動きに注目するよう声掛けする。 ・ ドリルが終わったら丸付けし、2 枚目を配布する。			・ ドリルの解き方を適宜説明する。 ・ ドリルが終わったら丸付けし、2 枚目を配布する。		・ ドリル 1 枚 (2P) で終わりにすることを伝える。 ・ ドリルの設問内容に対してどのようにアプリを操作するか説明する。 ・ できたことを適宜言葉で評価する。	・ ドリルの解き方を適宜説明する。 ・ ドリルが終わったら丸付けし、2 枚目、3 枚目を配布する。 ・ ドリルは紙またはデータを選ぶようにする。																									

11 : 00	Kahoot! で振り返りクイズに取り組む	●画面への注目を促す (T1、T2、T3) ●Kahoot! を使ったテストをはじめる。PIN コードと QR コードをテレビに表示する。 ○iPad で QR コードを読み取り、クイズに取り組む ●コードの入力やカメラアプリを起動するよう個別に支援する。(T2、T3) ○Kahoot! を操作して問題を解く。 ※本時の学習の理解度を確認する。 *設問を読み、正答を選ぶことが出来たか (評) <table><tr><th>B C E</th><th>A F H</th><th>D G</th></tr><tr><td>●問題に解答できるよう個別に支援する。</td><td>●設問に対してどれが正答になるか確認するよう促す。</td><td>●正答を時間内に選ぶよう声掛けする。</td></tr></table>	B C E	A F H	D G	●問題に解答できるよう個別に支援する。	●設問に対してどれが正答になるか確認するよう促す。	●正答を時間内に選ぶよう声掛けする。	電子黒板 2 iPad(各自 1 台ずつ)
B C E	A F H	D G							
●問題に解答できるよう個別に支援する。	●設問に対してどれが正答になるか確認するよう促す。	●正答を時間内に選ぶよう声掛けする。							
11 : 09	次回の学習の確認をする。 あいさつ	○次回も同じ教材を用いて時計の学習に取り組むことを伝える。 ・姿勢を整え、教師に注目するよう促す。							

【別紙】



Kahoot 問題画面



時計教材 レベル1



時計教材 レベル2



時計教材 レベル3